慶應義塾大学学術情報リポジトリ Keio Associated Repository of Academic resouces

Sub Title Study of the connection between responsibility and culpability in contemporary thoughts at the intersection of religion, ethics and society Author 村上, 暁子(Murakami, Akiko) Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2021 Jate 学事源與資金研究成果実績報告書 (2020.) Jatc DOI Abstract Approximation 本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光 を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の内実を解する研究に取り加えた。その意に、思 思家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領語の区分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定されよみ研究課題におい ては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を容益せる現代思想のアプローチによって「責任 」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究 継続税長しつっ、より広い視連に立った考察を行っている。 - 年計画の初年度であり最終年度でもある本年は、(いリクールとアーレントの議論に対するヤス パースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(シドベリユダヤ思想の文部とと) オイナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究規模的の研究是をの最え交換 を行う計画であっ。しかし新聞空コレナウィルス感染症の蔓延によるな器を留っ領加ました。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表し て必たい。 This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religous Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following task: (1) approver year, we of the study and discuss with other researchers the implications of cross- disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability. However, due to the situation caused by the pandemic of CVIP-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the period. Notes Genre Research Paper	Title	Itory of Academic resouces					
Intersection of religion, ethics and society Author 村上, 暁子(Murakami, Akiko) Publication year 2021 Jutile 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.) JaLC DOI 本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光 を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の 問題が盛んに論じられた。間許者は、これに充立 可究にないて、レヴィイス、リクール、アー レントの思想における両概念の遺闇や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問管部の広分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定され本研究課題におい ては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任 」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を 継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。 ー年計画の知作度であり最終年度でもある本年は、(い)クールとアーレントの議論に対するヤス パースの実存哲学の神組みの影響を調査し、(2)ドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究成果を公表して領域横断的なモデルケ ーズが倫理・宗水、社会思想にとってもつ意味をでの現界にこいいて購換問知 、近年と同事の国内外の最新研究を総合し、こうにの当然接触しの研究者との意見交換 を行う計画であった。しかし新型コロナヴィルス感染症の蔓延に大部業整備の増加と緊急事態重 言下での研究環境の変化のため、課題の実施に大幅な運び作と、して込券 が計画されていた論文一編についても、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益世のある仕方で成果を公表し ていきたい。 This comparative study of Levinas, Ricceur, and Arendt attempts to shell light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) catry the influence of Jaspers's existential philosophy on Roceur and Arendt 2] get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the peridd.		現代思想における罪と責任の区別の背後にある宗教・倫理・社会の領域の交錯について					
Publisher 慶應義塾大学 Publication year 2021 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.) JaLC DOI Abstract Abstract 本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光 を当て、これら諸領域の再画に回込みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希測化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の 問題が盛んに論じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アー レントの思想における両戦念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の区分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの男を鮮明する研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の区分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの男体哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定された研究課題におい ては、「宗教」と「倫理」」「社会」の領域を交結させる現代思想のアプローデによって「責任 」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を 継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。 一年計画の初年度であり最終年度でもある本年は、(リリクールとアーレントの議論に対するヤス パースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(2)ドイツユダヤ思想の支部に対すその第えをの意見交換 を行う計画であった。しかり新型コロナウイルス感染症の算証による実務量の増加と緊急事態宣 言下での研究環境の変化のたみ、課題の実施だけやなかった。今後は完訂の スが倫理・宗教・社会思想にとってもっ意義やその限界について隣接領野の研究者との意見交換 を行う計画ですった。しかし新型コロナウイルス感染症の算証による架務量の増加と緊急事態宣 言下での研究環境の変化のため、課題の実施だけやなかった。今近研究課題成果として公表 が計画されていた論文一編については、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表し ていきたい。 This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts bo shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following task: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt 2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of Gernan Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discus with other researchers the implications of cross- disciplinary approachos to the problem of human responsibibibility. However, due t		intersection of religion, ethics and society					
Publication year 2021 Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.) JaLC DOI Abstract Amsch 石研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題識能習見に「責任」と「罪」の 問題が盛んに論じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アー レントの思想における両概念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の区分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定された本研究課題におい ては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任 」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を 継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。 -年計画の利年度であり最終年度でもある本年は、(ハリクールとアーレントの議論に対するヤス パースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(シドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究規定の気脈とレヴィナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究規定の気脈としガッナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、ことに(3)研究規定して領域横断的なモデルケー 人が倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について親接領野研究者をの意見交換 を行う計画であった。しかし新型コロナウィルス感染症の蔓延による業務量の増加と緊急事態重 言下での研究環境の変化のため、課題の実施に大幅な運延が生じ、国際的な規模での調査・研究 変流を要する(および)のについては年度内の実施が中が取り金にため。その研究課題成果として公表 が計画されていた論文一編についても、予定されていた時初の刊行を断念した。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表し ていきたい。 This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of Gernam Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of cross- disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability. Honever, due to the situation caused by the pandemic of COVID-19	Author	村上, 暁子(Murakami, Akiko)					
Jittle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.) JaLC DOI 本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光 を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の 問題が盛んに論じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アー レントの思想における両残なの連関や差異化の内実を解りする研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の区分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が弾がし上がってきたことから、新たに設定された本研究課題におい ては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を結ぜも現代思想のアプローチによって「責任 」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのが、について、これまでの研究を 継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。 一年計画の利年度であり最終年度でもある本年は、(ハリクールとアーレントの職論に対するヤス パースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(2)ドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの職論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3研究成果を公表して領域横断的なモデルケー んが倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について機接領野の研究者との意見交換 を行う計画であった。しかし新型コロナヴィルス感染症の蔓延による業務量の増加と緊急事態重 言下での研究環境の変化のため、課題の実施に大幅な遅延がまし、国際的な規模での調査・研究 交流を要する(3)および(3)については年度内の実施が叶わなかった。先の研究課題成果として込表 が計画されていた論文一編についても、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表し ていきたい。 This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts, During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of cross- disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability. However, due to the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the period. Notes	Publisher	慶應義塾大学					
JaLC DOI Abstract 本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光 を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の 問題が盛んに論じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アー レントの思想における両概念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の反分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新に記定された本研究課題におい ては、「宗教」と「確理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任 」と「罪』」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を 継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。 一年計画の初中度であり最終年度でもある本年は、(ロ)リクールとアーレントの護論に対するヤス パースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(ロ)ドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(の研究現集を公表して領域横断のなモデルケー スが倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について隣接領野の研究者との意見交換 を行う計画であった。しかし新型コロナウィルス感染症の蔓延による業務量の増加と緊急事態置 言下での研究環境の変化のため、課題の実施に大幅な遅延が生じ、国際的な規模での調査・研究 交流を要する(2)および(3)については年度内の実施が叶わなかった。先の研究課題成果として公表 が計画されていた論文一編についても、予定されていた時期の刊们行を断念とた。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表し ていきたい。 This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discus with other researchers the implications of cross- disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability. However, due to the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the p	Publication year	2021					
Abstract 本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光 を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の 問題が盛んに論じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アー レントの思想における両概念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の区分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定された本研究課題におい ては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任 」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を 継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。 一年計画の初年度であり最終年度でもある本年は、(ハ)リクールとアーレントの議論に対するヤス パースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(シドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究成果を公表して領域横断的なモデルケー スが倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について隣接領野の研究者との意見交換 を行う計画であった。しかし新型コロナウィルス感染症の愛証による業務量の増加と緊急事態宣 言下で研究環境の変化のため、課題の実施に大幅な遅延が生じ、国際的な規模での調査・研究 交流を要する(2)および(3)については年度内の実施が叶わなかった。先の研究開超成果として公表 が計画されていた論文 -編についても、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表し ていきたい。 This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Responsibility and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of cross- disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability. However, due to the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the period. Notes Genre Research Paper	Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020.)					
を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の 問題確点に議じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アー レントの思想における両概念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の区分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定された本研究課題におい ては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任 」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を 総統発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。 ー年計画の初年度であり最終年度でもある本年は、(1)リクールとアーレントの議論に対するヤス パースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(2)ドイツユダヤ思想の定版とレヴィナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに3)研究成果を公表して領域横断的なモデルケー スが倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について隣接領野の研究者との意見交換 を行う計画であった。しかし新型コロナウィルス感染症の蔓延による業務最の増加と緊急事態宣 言下での研究環境の変化のため、課題の実施だけ中わなかった。先の研究課題成果として公表 が計画されていた論文一編についても、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表し ていきたい。 This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest interaction of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thought (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of cross- disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability and culpability. However, due to the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the period.	JaLC DOI						
Notes Genre Research Paper	Abstract	を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。 20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の 問題が盛んに論じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アー レントの思想における両概念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思 想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の区分けとは異な る仕方で複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想など から影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定された本研究課題におい ては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任 」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を 継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。 ー年計画の初年度であり最終年度でもある本年は、(1)リクールとアーレントの議論に対するヤス パースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(2)ドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの議論の親 近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究成果を公表して領域横断的なモデルケー スが倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について隣接領野の研究者との意見交換 を行う計画であった。しかし新型コロナウィルス感染症の蔓延による業務量の増加と緊急事態宣 言下での研究環境の変化のため、課題の実施ご大幅な遅延が生じ、国際的な規模での調査・研究 交流を要する(2)および(3)については年度内の実施が叶わなかった。先の研究課題成果として公表 が計画されていた論文一編についても、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の 課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表し ていきたい。 This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of cross- disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability, However, due to to the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international					
	Notes						
	Genre	Research Paper					
	URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=202000008-20200150					

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2020 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

			· • · / · / · · · · ·						
研究代表者	所属	文学部	職名	助教	補助額	200 (B) 千円			
	氏名	村上 暁子	氏名(英語)	Akiko MURAKAMI					
現代思想における罪と責任の区別の背後にある宗教・倫理・社会の領域の交錯について									
研究課題(英訳)									
Study of the connection between Responsibility and Culpability in Contemporary Thoughts at the Intersection of Religion, Ethics and Society									
1. 研究成果実績の概要									
本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。									
20 世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の問題が盛んに論じられた。申請者は、 これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アーレントの思想における両概念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組 んだ。その際に、思想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領野の区分けとは異なる仕方で複数の 領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想などから影響を受けている事実が浮かび上がってきたことか ら、新たに設定された本研究課題においては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任」と 「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を継続発展しつつ、より広い視野に立った考察									
を行っている。 ー年計画の初年度であり最終年度でもある本年は、(1)リクールとアーレントの議論に対するヤスパースの実存哲学の枠組みの影響を 調査し、(2)ドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの議論の親近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究成果を公表して領 域横断的なモデルケースが倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について隣接領野の研究者との意見交換を行う計画で あった。しかし新型コロナウィルス感染症の蔓延による業務量の増加と緊急事態宣言下での研究環境の変化のため、課題の実施に大 幅な遅延が生じ、国際的な規模での調査・研究交流を要する(2)および(3)については年度内の実施が叶わなかった。先の研究課題成 果として公表が計画されていた論文ー編についても、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の課題を実施し、研究期 間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方で成果を公表していきたい。									
		2.研究	成果実績の概要	要(英訳)					
This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of cross-disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability. However, due to the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the period.									
3. 本研究課題に関する発表									
発表者 (著者・		発表課題名 (著書名・演題)	(‡	発表学術誌名 皆書発行所・講演学会)	学術誌系 (著書発行年)				